

SJクイズ

[問題編]

Q1 平成23年の歩行者（第1・2当事者）の交通事故死傷者数を道路形状別にみると、幼児では単路が約半数を占めていますが、小学生の場合はどこが多いでしょう？

- ①交差点（交差点付近含む） ②単路 ③踏切

Q2 小学生の歩行者（第1・2当事者）の交通事故死傷者数を通行目的別にみると、次のうち最も多いのはどれでしょう？

- ①遊戯 ②訪問
③登校 ④下校



Q3 幼児・小学生の歩行者（第1・2当事者）の交通事故死傷者で最も多い違反は次のうちどれでしょう？

- ①横断違反（横断歩道外横断など）
②飛び出し
③幼児ひとり歩き
④路上遊戯

【使用上の注意】

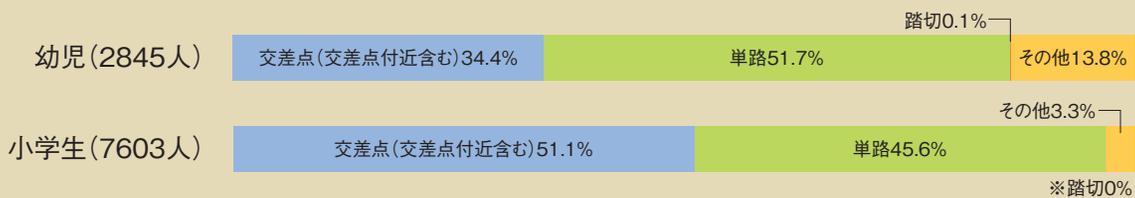
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736

Q1 **解答** ①交差点（交差点付近含む）

<解説>

平成 23 年の幼児・小学生歩行者（第 1・2 当事者）の交通事故死傷者数を道路形状別にみると、幼児では単路が約半数を占めているが、小学生では交差点（交差点付近含む）が約半数を占めている。また、交差点の信号機の有無をみると、「信号機なし」が 7 割近くを占めている。子どもには、信号機の有無にかかわらず、交差点では必ず止まって、右左右を確認し、クルマやバイクがないことを確かめてから横断するように伝えることが重要である。

●平成 23 年の子ども歩行者の道路形状別交通事故死傷者数（構成率）※(財)交通事故総合分析センター資料



Q2 **解答** ④下校

<解説>

平成 23 年の小学生歩行者の交通事故死傷者数を通行目的別にみると、最も多いのは下校（19.0%）である。登校も 13.5%あり、通学中に事故に遭うケースが約 3 分の 1 を占めている。学齢が下がるにつれ、死傷者数は増えており、低学年ほど歩行者教育が必要だと言える。登下校の時は特に、友だちと遊びながら歩いたり、遊びに夢中で右左右の安全確認をせずに道路を横断しないよう、子どもに伝えてほしい。また、ドライバーやライダーは登下校の時間帯に小学校の周辺を走行する際は、より一層注意して運転しなければならない。

●平成 23 年の小学生歩行者の通行目的別交通事故死傷者数（構成率）※(財)交通事故総合分析センター資料



Q3 **解答** ②飛び出し

<解説>

平成 23 年の幼児・小学生歩行者の交通事故死傷者数を学齢別・法令違反別にみると（「違反あり」は幼児 73.9%、小学生 63.2%）、最も多い違反内容は幼児、小学生いずれも「飛び出し」で 50%以上を占めている（幼児 52.6%、小学生 57.5%）。幼児・小学生以外の年齢層の 8.7%と比較すると、いかに「飛び出し」が子ども特有の違反であるかがわかる。実際、遊びに夢中になっている時などに飛び出してしまふ事故が起きている。道路を横断する際は、必ず止まって、右左右を確認すること、そして、横断歩道を利用することが重要であることを子どもに理解してもらうことが大切である。また幼児の場合は、保護者などがひとり歩きをさせたり、道路で遊ばせたりしないように注意しなければならない。

※文中のデータは（財）交通事故総合分析センター資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736